

2025年9月 (No.435)

主な内容とページ

好調に推移、世界半導体貿易	1
半導体輸入、主要国が大幅増	3
中国、韓国からの輸入急伸したベトナム	3
台湾-韓国 GPU と HBM 連携が本格化	4
韓台連携なるか、TSMC と SK そしてサムスン	5
米中貿易紛争、関税政策は失敗	7
米国は中国市場を捨てられない	8
トランプ関税と貿易依存度 (SRL だより)	10

好調に推移、世界半導体貿易

2025 年の世界の半導体貿易は AI ブーム下で成長、米関税政策の変化に影響したとみられる動きが出たが好調に推移している。

1. 世界最大の半導体貿易額の中国・香港は 2024 年に成長に転じ、25 年も成長を確保しそう。中国は輸入大国から輸出でも存在感を高める動きをみせている。
2. 昨年から本格化した台湾と韓国間の貿易額は 25 年上期に前年比 2 倍に達し AI ブームを象徴する動きとなっている。
3. 米国の関税政策は、中国側の反発から半導体貿易への影響は限定的。米国にとって半導体では世界最大市場の中国を無視できない状況を浮き彫りにし、実効は少ないことが貿易結果は露呈している。

トランプ関税と貿易依存度

貿易依存度 (trade dependence) という指標があり、これは GDP に対する貿易額の比率を示す。例えば 2023 年は香港 (306%)、ジブチ (231%)、シンガポール (186%) が上位 3 か国。わが国は 106 位 (35%)、米国は 201 位 (18%) *。半導体の場合は世界消費額に対する貿易額の比率は 25 年上期で 463% となり、依存度は高い。

この指標は、歴史的には戦後の GATT (関税貿易協定)、80-90 年代のグローバル化、情報通信技術の発達などから先進国において高まり、最近ではアジアや新興国へも波及、先進国も複雑なサプライチェーンの利用で高い比率を維持しているという。

さて、世界を揺るがしている最近の米国の関税政策は、この指標にどのような影響を与えるのだろうか。半導体の場合は、影響は限定的というのが今回の結論。半導体貿易および市場での圧倒的な中国の影響力、AI ブームの急伸という極めて大きなパワーはトランプ大統領でもあがらえないとみえるが...

(大竹 修)

*いずれも国連 UNCTAD 調べ

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2025 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 9 月 (毎月 1 回発行) 第 36 巻 9 号 (通巻 435 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

September 2025, No.435

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2025

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円 (税込み)